

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開の習熟別指導を行っている。</li> <li>計算や単位換算など習熟に個人差があり、既習事項の定着に課題がある児童が少なくない。</li> <li>自分の考えをノートに表現したり、分かりやすく説明したりできる児童が増えてきているが、苦手とする児童も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開を單元ごとのレディネステストをもとに習熟度別により、個人差に対応しながら学習を進めていく。</li> <li>既習事項の定着度を確認すると同時に、ドリル学習などで反復して習熟させる。</li> <li>自分の考えをかいたり、友達の発表を聞いたり、説明したりする活動を取り入れた授業展開を日頃から努める。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開の習熟別指導を行っている。</li> <li>既習事項の基礎的な計算などが身につけていない児童が少なくない。</li> <li>課題解決について自分の考えを明確に示すことが難しい児童が多く、個人差も大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開指導で児童に応じた習熟度指導を行い、個人差に配慮した授業展開をする。</li> <li>既習事項の定着を確認しつつ、反復して練習問題等に取り組みせ、習熟を図っていく。</li> <li>考えを交流する場面を多く設定し友達の意見を取り入れたり、参考にしたりすることで考えの示し方や図示する方法などを身につけられるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開の習熟別指導を行っている。</li> <li>既習の基礎的な知識や技能が定着していない児童も一定数いる。</li> <li>自分の考えを筋道立てて表現する力の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導を心がけ、計算の基礎的な技能はドリル学習等で反復を通して習熟させる。また、学習の前には前時や既習事項の復習を適時取り入れ、本単元の学習につなげていく。</li> <li>言葉・式・図・数直線などを活用させることで、自力で主体的に問題解決できる力を高めると共に、筋道を立てて説明できる力を伸ばす。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開の習熟別指導を行っている。</li> <li>既習である基礎的な知識や技能が定着していない児童、算数科に対する強い苦手意識をもつ児童も少なくない。</li> <li>問題解決型の学習に意欲的に取り組める児童もいるが、問題解決に向けて試行錯誤すること自体に苦手意識をもつ児童も少なくない。</li> <li>自分の考えを筋道立てて表現することについて、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算などの基礎的な知識や技能は簡単な問題から取り組み、反復練習や個別指導を行うなど児童の実態に応じて習熟させる。</li> <li>計算式だけでなく、言葉や図・絵などを用いて考えさせることで、筋道立てて問題解決ができるようにしていく。また、自分の考えを表現させる際にも、式はもちろんのこと、言葉、図・絵などを用いて表現させるようにする。</li> </ul>

